

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

| | | | |
|------|---|-----|---------|
| 学校番号 | 6 | 学校名 | 羽島北高等学校 |
|------|---|-----|---------|

| | | | |
|------------------------|---|---|--|
| 社会的役割等 (スクール・ミッション) | 多彩な教育活動に取り組む地域に根差した高校として 地域との交流や生徒の能力、適性に合ったきめ細かな教育活動を通して 思いやりの心と自らの将来を主体的に切り拓く力をもった人材の育成を目指す学校 | | |
| 学校教育目標 (教育方針) | ①すべての教育活動を通して、活力に満ち、明るく特色ある学校づくりに努めるとともに、校訓「誠実・叡智・進取」の目指す生徒の育成に励む。 ②自主自発の精神を高揚し、あらゆる場を通して豊かな創造力と逞しい実践力を兼ね備えた生徒を育成する。 | | |
| 3つの方針 (スクール・ポリシー) | どんな生徒を 育てたいか 【GP】 | <ul style="list-style-type: none"> ・思考力と的確な判断力を身に付けるとともに、自ら進んで学ぶ態度を身に付け、自分の意見をしっかりと持ち他者と協働して課題解決に取り組む生徒 ・心豊かで思いやりがあり、多様な人々の互いの人格を尊重する人権感覚に富む生徒 ・地域社会の一員として積極的に考え行動し、常に進取の気概に富む21世紀を担う国際性を備えた生徒 | |
| | 生徒をどう 育てるか 【CP】 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力・課題解決力を育成するための「課題自体の背景の研究やその調査、探究的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」・「キャリア教育」の推進 ・多様な授業形態や活動を「探究的な学び」・「各教科学習」・「高大連携」・「地域連携」に取り入れるとともに、ICTの活用による生徒のコミュニケーション能力伸長と発信力の育成 ・生徒一人ひとりの個性や長所に応じて、その能力や特性を十分に伸長するとともに、「私が決める、私の未来」と題された生徒本人が自身の進路目標に沿って構築する本校独自の年次を超えた単位制カリキュラムの実施 | |
| | どんな生徒を 待っているか 【AP】 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を身に付け、お互いや他者の多様性を尊重し、協働しながら主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・自ら進路志望の明確化を図り、多様な学びに主体的に取り組み、自己の可能性に挑戦し充実した学校生活を送る意欲のある生徒 ・生徒会活動や部活動などの校内の活動や地域貢献活動などの校外の自主的な活動やボランティア活動に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 | |

| | | | |
|----------|--|--|--|
| 学校の抱える課題 | <ul style="list-style-type: none"> ◇生徒一人ひとりのニーズに合った教育課程の編成と教科指導 ◇本校特有の教育課程に伴う業務への多忙感 | | |
|----------|--|--|--|

| | | | |
|---------|-------|--|--|
| | 領域・分野 | 今年度の具体的な重点目標 | |
| 教育指導の重点 | 学習指導 | 教職員の授業改善により、生徒の学習への興味・関心を高め、確かな学力の定着と課題解決能力の育成を図り、進路目標達成に向けて努力する姿勢を養成する。 | |
| | 進路指導 | 生徒の能力・適性や進路希望等に即応する教育課程の編成・運営により、生徒一人一人が意欲的に継続して学習に取り組み、確かな学力を身につけ、進路目標を達成できるよう図る。 | |
| | 生徒指導 | 豊かな人間性と自主自律の心を養い、学業に目的意識をもって意欲的に取り組む生徒を育てるために、全職員の十分な連携のもとに、信頼と愛情を基盤とした生徒指導に努める。 | |
| | 特別活動 | 生徒会行事・部活動・各種の地域貢献活動への積極的参加を促し、生徒の自主的な活動を援助し、より充実した学校生活となるように努める。 | |

| 年度目標 | | | | 年度末評価(自己評価) | | | |
|----------|---|-------------------------|---|---|---------------|---|---------------------|
| 領域 分野 | 3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策 | 県教育振興 基本計画での 位置付け | 達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標 | 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等 | 評価 A.B.C.D | 成果と課題 | 総合 評価 A.B.C.D |
| 学習指導 | ・授業改善を継続して推進し、わかりやすい授業の実践により、生徒の学力向上を図る。 | 施策Ⅱ-8 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組み内容とその後の変容 ・生徒及び保護者を対象としたアンケートの結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業、家庭学習でスタディサブリを積極的に利用した。 ・授業公開週間を設定し、互いの授業を見学した。 ・探究活動について、副担任を中心に年次職員の共通理解のうえ活動し、地域社会の一員として意欲的に取り組む姿勢があった。 ・外部講師を招いて、認知特性等を意識させ、学習意欲の高揚を図った。 ・オンラインスタディツアーは生徒が主体的に活動することを企画し、事前学習の充実を図った。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ▲教員間の授業参観の活性化、交流会や他校の授業を見学する機会の検討がより必要。 ○探究活動については、外部講師との交流の機会をより多くもち、生徒の活動の活性化につながった。 ○▲外部講師の活用により、生徒の意識が変容させることができた。今後も学習への取り組みについての意識の改善が必要。 ○オンラインスタディツアーにおける生徒の活動、事前学習が充実してきている。 | B |
| | ・スタディサブリ等の積極的な活用や家庭学習の充実を図る働きかけにより、生徒の学力向上を図る。 | 施策Ⅳ-23 | | | | | |
| | ・総合探究、LHRの内容のさらなる精選を図り、生徒の生きる力や学力向上の取り組みを支援する。 | 施策Ⅰ-4 | | | | | |
| | ・指導力のため、教職員間の授業研究、教材研究の推進や、学びあい等の意識を高める。 | 施策Ⅳ-26 | | | | | |
| 進路指導 | ・進路選択の視野を広げ、高みへ挑戦する動機付けにつながる支援を、全教育活動を通じて推進する。 | 施策Ⅱ-8 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組み内容とその後の変容 ・生徒及び保護者を対象としたアンケートの結果 ・進路実現につながる外部リソースの活用状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・「進路実現マップ」により3年間を見通した進路実現について継続的に意識づけを行い、学習意欲の定着を図ることができた。 ・外部模試に向けた事前・事後指導を充実させ、模試への取組みを強化した。 ・3年次の総探の時間における志望理由書、面接、小論文の指導については、オリジナル教材およびスタディサブリを用いて、計画に基づき実施することができた。 ・特編授業の内容をより学力向上を目指したものにした。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○外部模試に、目標を持って意欲的に取り組む雰囲気が高まった。 ○共通テスト志望率は66%となり、一般選抜受験者数が増加し、一般選抜志向の高まりが見られた。 ▲早い時期から進路選択の視野をより広げる工夫が必要である。 ▲地方国公立大学等にも目を向け、学校推薦型選抜や総合型選抜から挑戦する生徒を育てたい。 | B |
| | ・探究活動、面接・小論文・志望理由書対策等の指導力強化の継続を図る。 | 施策Ⅱ-8 | | | | | |
| | ・講話や説明会等を通じて、適切な時期における情報提供により、生徒の意欲、保護者の意識を高め、将来を見据えた、より主体的な進路の選択を推進する。 | 施策Ⅰ-7 | | | | | |
| | ・外部リソースの積極的、有効的な活用により、生徒の進路実現の取り組みを支援する。 | 施策Ⅱ-13 | | | | | |
| 生徒指導 | ・全教育活動を通じて、全教員が生徒理解に努め、生徒一人一人が自己実現できるように支援する。 | 施策Ⅰ-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者を対象としたアンケートの結果 ・不登校・問題行動件数(昨年度との比較) ・交通事故発生件数(昨年度との比較) | <ul style="list-style-type: none"> ・心の不調を訴える生徒の対応を丁寧に行い、不登校やいじめ被害などの未然防止を図った。(R6年9件→R7年8件) ・外部講師による講演会等を多く企画し、生徒の規範意識等を高めるとともに、マナー等の指導も充実させた。 ・いじめ・迷惑調査などのアンケートを年4回以上行い、生徒や保護者の困りごとをすぐに解消できるようにした。 ・MSリーダーズの生徒による挨拶運動や、ヘルメット着用の啓発活動をし交通事故発生件数が減少した(R6年21件→R7年19件) | B | <ul style="list-style-type: none"> ○事案に対し、生徒の指導、連絡を徹底することができた(保護者へは文書、スグール)。 ○スクール相談員、スクールカウンセラーとの連携を密に取り組むことができた。 ▲全員のヘルメット着用にはまだ届いていない。来年度の乗車用ヘルメット着用明文化に向けて家庭でのヘルメット着用指導に協力していただく。 ▲TP0に応じた服装ができない生徒への指導や授業規律に対する指導について職員の共通認識が必要。 | B |
| | ・外部講師による講話等により、生徒の規範意識を高め、問題行動等の減少を図る。 | 施策Ⅲ-19 | | | | | |
| | ・アンケート等を活用することで生徒、保護者の要望を把握し、規範意識向上のための指導に努める。 | 施策Ⅰ-3 | | | | | |
| | ・MSリーダーズ、生徒会による交通安全運動等を実施し、交通安全等のマナー向上、交通事故防止を図る。 | 施策Ⅲ-19 | | | | | |
| 特別活動 | ・地域の活動の様子を伝え、ボランティア活動を活性化し、地域社会の一員としての自覚を促す。 | 施策Ⅰ-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動・学校行事に対する関係者の評価 ・ボランティア活動に対する参加状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事等のボランティア活動について、定期的に周知していくことで、参加生徒数も多くなり、地域の一員としての自覚が高まった。 ・生徒主体で行事等の企画を考え、運営にも携わる機会が増えており、自ら進んで学校の取り組みに関わる姿が多く見られた。 ・部活動に対する取り組みも、積極的な様子が伺え、以前よりも活動的な雰囲気が醸成されている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身が自ら進んで様々な活動に参加する意欲が向上しており、高校生として幅広く活動できる様子も見られ、学校の雰囲気も良くなっている。 ○▲積極的に活動できる良さが増している半面、学校全体に注意を払い、バランスの良い取り組みにしていく工夫が必要である。 ▲部活動の加入率は前年よりも良いが、退部する生徒も以前よりも多くなっている。 | B |
| | ・北翔祭(文化祭)や球技大会等の学校行事において生徒による企画や運営主体を促す。 | 施策Ⅳ-24 | | | | | |
| | ・部活動への積極的参加を促し、生徒の自主的な活動を支援し、人間関係の醸成、仲間との協力の態度を育てる。 | 施策Ⅳ-25 | | | | | |
| | | | | | | | |

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年1月19日 学校関係者評価 実施日：令和8年2月2日

| | |
|---|---|
| <p>進路志望の明確化、学習に主体的に取り組むために(学習指導・進路指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修や情報交換(ICT、スタディサブリ活用等)による教員の授業改善の推進 ・学力向上、進路実現をより意識させた授業改善、模試、補習等への取り組みの推進 <p>基本的生活習慣の確立のために(生徒指導・学習指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律、制服の正しい着こなし、交通マナー向上等の取り組みの推進 ・全職員の共通認識により取り組む生徒指導の実施 <p>地域に根差した学校づくりのために(特別活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や地域におけるボランティア活動のさらなる参加の促進 ・生徒の力による生徒会活動及び学校行事への支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導について、授業の形態を工夫して成果をあげており、生徒は真摯に授業等に打ち込んでいる姿がある。また、教員は授業準備等を丁寧にして授業をされている。 ・教員のPCの活用については、ホワイトボードへの映写が多い。今後、工夫が必要である。 ・ボランティア活動等については、とても参加者が多い。生徒の、人として人と対応する力が身につく良い機会であるが、短期間では身につかない。取り組みを継続してほしい。 ・地域の中で本校の生徒を時々見かける。とてもマナーや行儀等がよいと感じている。今後も指導、支援を継続してほしい。 |
|---|---|